

音楽活動によって生まれる楽しさや喜びを実感する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 育成を目指す資質・能力を明確にし、思考・判断のよりどころとなる、音楽を形づくっている主要な要素を焦点化した授業を構想する。
例) 児童生徒の実態把握と十分な教材研究に基づいた題材を構想する。
- ② 児童生徒が音楽に実感を伴って理解を深めるために、音楽活動と言語活動を行き来できるようにし、音楽表現や鑑賞活動の充実を図る。
- ③ 曲の特徴を捉えることができるよう、聴覚だけでなく、視覚を働かせたり、体を動かしたりする活動をねらいに応じて設定する。
- ④ 他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値を実感したりする場面を意図的に設定する。

器楽の活動において、自分なりに表現を工夫しながらアンサンブルを楽しむ学習の例

小学校第6学年

題材名「リコーダーアンサンブルを楽しもう」(A表現・器楽)

◇題材の目標(一部)

旋律やリズム、*音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

[思考力、判断力、表現力等]

◇題材の主な学習活動(全3時間)

【第1時】

○演奏曲を聴き、旋律と各パートや曲の構成を知り、自分のパートの運指とリズムを正しく演奏する。

【第2時】

○リコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。
○自分が選択したパートの役割を理解して演奏する。

【第3時】

○工夫した表現を発表し合い、それぞれの演奏のよさを共有し、演奏する楽しさや喜びを実感する。

単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

<個別最適な学び>

指導の個別化

リコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて、教師の模範演奏や参考動画、過去の録音等から自分に合った奏法を選択し演奏する。

学習の個性化

旋律、音楽の縦と横との関係の働きが生み出す雰囲気を感じ、自らの演奏から知覚したことと感受したこととの関わりについて、自分なりに考えた工夫で演奏をする。

<協働的な学び>

他者の意見や演奏から、知覚したことと感受したこととの関わりを考え、互いの発表を通してどのように演奏するかについての思いや意図をもつ。

*音楽の縦と横との関係

音の重なり方を縦、音楽における時間的な流れを横と考え、その縦と横との織りなす関係を示している。音楽の縦と横との関係についての学習では、輪唱(カノン)のように同じ旋律がずれて重なったり、二つの異なる旋律が同時に重なったり、はじめは一つの旋律だったものが、途中から二つの旋律に分かれて重なったりするものなどを取り扱うことが考えられる。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 p137』

◇本時のねらい(2/3)

全体のバランスを考えながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する。

◇学習活動

1 学習課題を確認し、実際に演奏して自分のパートの運指やリズムが正しいかを確認する。

2 個人で曲の特徴にふさわしい表現を試す。

S1: 他のパートとの音の重なり方を明確にするために、楽譜に色を付けてリズムや音程の違いを判断したいです。

S2: 1人1台端末の動画は運指を見ながら音も同時に聴くことができるので、表現を工夫する時の参考にしたいです。

3 ペアで演奏し、工夫した表現を確かめる。

S1: 1人1台端末の伴奏音源で演奏した時のように、音の出だしや旋律がなめらかになるように演奏したいです。

S2: プレスする箇所を合わせたり、同じリズムで始まる所に目印を付けたりして、タイミングを合わせるための工夫をして力強く演奏したいです。

T: 相手の演奏も聴きながらプレスをする箇所を確認し合ったり、力強く演奏するための技法を話し合ったりすることも大切ですね。

4 奏法との関わりや、旋律の重ね方等について工夫した表現をワークシートに記入する。

5 本時の振り返りをワークシートに記入する。

◇評価規準

旋律、音楽の縦と横との関係を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい表現としてどのように表すかについての思いや意図をもっている。

【思考・判断・表現】(観察・ワークシート)

<個別最適な学び>

教師が教材研究に基づき、1人1台端末の楽譜編集機能を用い、児童の実態に合ったパートを個別に示したり、演奏する箇所を部分的に提示したりすることが考えられます。

ICT1

<協働的な学び>

教師が音楽の縦と横の関係に注目する部分を譜面で示したり、児童が「よい工夫だな」と感じた部分を実際に試してみたりするよう促すなど、必要に応じて具体的な助言をします。そうすることで、児童同士が適切にアドバイスをし合ったり、音楽的な表現を深めたりすることがあります。34

